



# 主 陵 会 々 報

発行所 岩手医科大学主陵会  
〒020-8505盛岡市内丸19の1  
Tel 019(651)5111番  
Fax 019(624)8380番  
URL <http://www.keiryokai.gr.jp>  
題字 三田定則 先生書成  
発行人 石川 有明  
編集人 酒井 育夫  
印刷所 山口北州印刷

7 月 号

目 次	
ドクターヘリ本格運航開始……1	支部だより……16
医学部長就任のご挨拶……2	医学部同窓会だより……17
附属病院長就任のご挨拶……3	歯学部同窓会だより……20
教授就任のご挨拶……4	トビックス・FAXニュース……23
最終講義……7	特別寄稿「創立者三田俊次郎の業績」吉丸蓉子……30
平成二十四年度入学式……10	大学震災募金報告・大学人事……32
平成二十三年度歯学部奨学生……12	大堀 勉先生逝去を……33
科研費補助金申請・採択状況……13	お祝い・ご逝去・編集後記……34
主陵会本部だより……14	

## ドクターヘリ本格運航開始

岩手医科大学は、岩手県より委託を受けドクターヘリ導入促進事業を進めてきました。

三月三〇日には、岩手医科大学附属病院ドクターヘリ基地ヘリポートが矢巾キャンパス附属病院移転用地内に完成しました。

そのドクターヘリポート完成後、関係機関の協力を得て、この度五月八日にドクターヘリの本格運航を開始しました。

ドクターヘリは広大な岩手県の全域を三十分以内で結ぶこととなり、岩手県民の大きな期待が寄せられています。

○ ドクターヘリ格納庫等施設概要：地上一階、延床面積四三二㎡  
・設備内容  
電動式スライディングヘリパット設備格納庫、融雪設備ヘリポート、  
運航管理事務室、医師待機室、看護師待機室、地下燃料貯蔵庫 等

○ ドクターヘリ機体概要（ユーロヘリコプター社製 EC-135）  
全長一二・一六m、前幅一〇・二〇m

最大巡航速度 時速二五四km、航続距離六三〇km、搭乗定員六名、  
搭載医療機器：人工呼吸器、吸引器、患者監視モニター、携帯型超音  
波診断装置、輸液ポンプ、救急医療器材、医療品、バックボード等

（関連記事23頁）

- （お祝い）  
左記の方々には表彰を受けられました。お祝い申し上げます。  
秋田県医師会設立六十四周年記念医学大会  
功労者表彰  
医六 吉成俊太郎 殿  
瑞宝小綬賞  
医八 金子 克 殿  
日本体育協会・JOC創立一〇〇周年記念  
事業功労者表彰  
医九 足澤 輝夫 殿  
日本体育協会・JOC創立一〇〇周年記念  
事業功労者表彰  
宮城県知事表彰  
医二七 葛 但寛 殿  
宮城県地域医療協議会会長表彰  
医二八 小高庸一郎 殿  
箱石 勝見 殿  
日本医師会優功賞  
医九 笠井 英夫 殿  
東日本大震災における貢献者表彰  
医十八 佐々木文秀 殿  
厚生労働大臣表彰  
医十八 山岡 豊 殿  
東日本大震災における貢献者表彰  
宮城県知事表彰  
医二七 葛 但寛 殿  
宮城県地域医療協議会会長表彰  
医二八 日本学士院賞  
他一〇七 二井 将光 殿  
秋田県医師会設立六十四周年記念医学大会  
功労者表彰  
医二九 金 直樹 殿  
日本学校歯科医学会会長表彰  
岩手県学校保健功労者表彰  
歯一四 猪苗代盛昭 殿  
歯一四 熊谷 英人 殿  
インテリジェント・コスモス奨励賞  
他一〇五 鍵谷 忠慶 殿  
日本学士院賞  
他一〇七 二井 将光 殿

- 会員逝去 謹んでご冥福を  
お祈り申し上げます。  
平成二十四年四月二一日  
立花 崑 殿  
岩手県盛岡市手代森一四一九九  
平成二十四年三月七日  
堀内 正和 殿  
専一六 堀内 正和 殿  
長野県長野市居町八  
平成二十四年四月一八日  
専一六 向井 勝郎 殿  
広島県三原市和田二一五二三  
平成二十四年六月七日  
専一七 大堀 勉 殿  
岩手県盛岡市志家町一〇一五  
平成二十四年五月一日  
専一七 佐藤 友義 殿  
岩手県盛岡市加賀野一〇一五  
平成二十四年四月二三日  
専一八 國分 森男 殿  
神奈川県藤沢市遠藤六四五一四  
平成二十四年四月二二日  
専一八 菅 采女 殿  
岩手県盛岡市中ノ橋一三三一九〇一  
平成二十四年三月一八日  
医六 熊谷 雄好 殿  
岩手県花巻市若葉町三一一二〇  
平成二十四年三月三一日  
医一〇 大波 克夫 殿  
東京都東久留米市下里七七一  
平成二十四年三月三〇日  
医一一 石川 洋三 殿  
栃木県宇都宮市御幸本町四七三二二  
平成一三年  
医二八 後藤 道子 殿  
平成二十四年五月一八日  
歯二 清水 明 殿  
北海道恵庭市住吉町四七二二  
平成二十四年五月七日  
歯五 山内 明善 殿  
埼玉県川越市旭町三二五二二  
平成二十四年四月一四日  
歯九 大沢 俊明 殿  
群馬県桐生市境野町六〇二一五  
平成二十四年六月二二日  
他六六 吉野 公喜 殿  
岩手県盛岡市山岸一六一二〇

編集後記  
本学名誉理事長 大堀勉先生が逝去されました。ここに謹んでお悔やみ申し上げます。  
以前、入学式にて訓示を拝聴したことがあります。「実るほど頭を垂れる稲穂かな」の句を挙げながら、驕ることなく、病める人々のために勉学に勤しむようにと仰つておられたのが印象的でした。ひとえに謙虚さを旨とする先生のお人柄の表れと思われませんが、本学出身者・関係者には大堀先生以外にも謙虚な方が多く、おそらく先生のお気持ちには多くの方々にも広く伝わっているのではないのでしょうか。  
また、別の折には、矢巾キャンパス開設に至るまでの経緯について何う機会もございましたが、そこには並々ならぬ労苦があったとのことです。薬学部の開講にはじまり、医・歯学部の教育・研究部門の移転、病院用地の整備、ヘリポートの運用開始と、キャンパスの実現が着々と進んでおります。新たに災害時地域医療支援教育センターの建設も始まってまいります。大堀先生をはじめとする幾多の先人の播かれた種がまさに花開こうとしております。今後も、矢巾・内丸キャンパスでの病院施設の整備等、将来にわたつて益々発展していくものと思われませんが、主陵会会員の皆様には一層のご指導を賜りますようお願い申し上げます。  
（山崎健、安藤禎紀、藤本康之）



# 医学部長就任のご挨拶

平成二十四年四月一日付

医学部形成外科学講座 教授 小林 誠一郎

圭陵会の皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度、鈴木一幸医学部長の後任として、医学部教授会のご推薦をいただき、理事会の決定を受け、四月一日付で医学部長を拝命致しました。様々な解決すべき問題が山積みされているこの時期に医学部長の大役を仰せつかりましたことは、身に余る重責ではございますが、鈴木一幸前医学部長の御業績に恥じぬよう、全体の調和を旨として一歩一歩着実に歩を進めたいと思っております。

思い起こせば、私が村井病院長より副院長業務を仰せつかりまして以来、長らく病院運営に携わってまいりました。DPC導入に始まり、診療録の中央化、クリニカルパス委員会の立ち上げ、医療材料の見直し、医療安全・感染対策の拡充等々様々な問題に取り組んでまいりました。「任を遂行できた」などとは到底申し上げられません。幸いにも関係各位また職員の皆様の並々ならぬご協力・前向きの一歩を感じながら、それをあげみとさせていただき、今日まで大過なく過ごさせていただいたような気がしております。

以上のような経験の中で目指してきたことは

「医療技術と医療サービスを含めたより良き医療の提供」であります。今後は、「より良き医療の提供」というモットーを教育・研究の中に生かしてゆきたいと思っております。

さて、薬学部が加わり、本学が医歯薬総合大学として新たに歩み始めて六年目を迎えます。教育面では三学部共通カリキュラムの導入をはじめ、研究面では医歯薬共同研究センターが活発な研究体制を充実させつつあります。このような三学部の横断性と各学部の独自性、すなわち縦と横のリンクが本学の特徴であり、さらなる基盤形成を推し進める必要があります。

共通カリキュラムを除いた医学部独自の教育に目を転じれば、休む暇のない座学および実習カリキュラムが生まれ、履修内容を効率的に習得する工夫が進められています。しかし、毎年、各学年数名の留年者が出ることは、大変悩ましい問題であります。

厳しい入学の難関を突破し、受験勉強からの解放感でホッとした時期の一、二学年から、医師になるという初心を忘れず、勉学の習慣を怠ることなく過ごすことが重要な鍵ではなからうかと思っております。少しずつであっても勉強の継続と積み重ねが躓く前の強固な杖となるよう

指導してゆきたいと思えます。加えて、留年人数を減少させるべく、さらなる改善策を検討してゆく必要があります。必要な履修範囲の提示とその理解、不十分な習得部分の明確化とそれに対する補強策など、定員増をも踏まえ、重点課題として今後とも継続した改善を図る所存です。

研究面等に目を移すと、今年度は震災関連の各種大型補助が策定されつつあります。現時点で決定されているものには、被災地の健康サポート、災害医学推進関連事業、心のケアサポート事業などがあります。被災地支援を基盤とし、岩手県医療全体の向上につなげるべく、また、全国に発信できるモデル事業とすべく、大学全体として取り組む大きな課題です。一方で、矢巾への病院移転という大きな事業が控えており、本年度は大学変革のさらなる一歩を踏み出す年とも言えます。良い医療の提供、また教育と研究の基盤となる大学の発展を旨とし、確実な歩みを進めて行きたいと思えます。

圭陵会の皆様には、今後とも物心両面からのご援助をお願いすることがあるかと存じますが、継続したご協力、ご指導、ご鞭撻を切にお願い申し上げます。

## 学校法人岩手医科大学名誉理事長（前理事長）

### 岩手医科大学名誉学長（元学長）

#### 圭陵会 顧問

## 大堀 勉 先生 逝去せらる



大堀 勉 先生（八十七才）には、かねて病氣療養中のところ六月七日午後五時四十三分ご逝去になりました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

告別式は学校法人岩手医科大学による法人葬をもって左記のとおり執り行われます。

#### 記

日時 平成二十四年七月七日（土）午後一時  
場所 岩手県民会館（盛岡市内丸九十三ノ一）

葬儀委員長

学校法人岩手医科大学 理事長・学長 小川 彰 殿

## 故大堀 勉 圭陵会顧問 略歴（岩手医科大学・圭陵会を主とした）

本籍地 福島県 大正一四年 三月八日生

#### 学歴等

- 昭和一七年 三月 福島県立会津中学校卒業
- 昭和一九年 四月 岩手医学専門学校入学
- 昭和二四年 三月 岩手医学専門学校卒業（医専一七期）
- 昭和二四年 四月 国立千葉病院において病院実施修練（昭和二五年三月迄）
- 昭和三四年 六月 医学博士

#### 職歴

- 昭和二五年二月 東京慈恵会医科大学外科学講座副手嘱託
- 昭和二七年 二月 東京慈恵会医科大学泌尿器科学講座に転ず
- 昭和二九年 一月 東京慈恵会医科大学泌尿器科学講座助手任用
- 昭和三五年 二月 東京慈恵会医科大学泌尿器科学講座講師昇任
- 昭和三六年 五月 岩手医科大学医学部皮膚泌尿器科学講座助教昇任（昭和五四年六月迄）
- 昭和三六年 七月 圭陵会幹事就任
- 昭和四一年 四月 岩手医科大学医学部泌尿器科学講座教授昇任（平成 五年三月迄）
- 昭和五四年 四月 学校法人岩手医科大学評議員就任（平成二四年二月迄）
- 昭和五四年 七月 圭陵会副会長就任（昭和六三年六月迄）
- 昭和五九年 四月 岩手医科大学医学部附属病院院長就任（昭和六〇年三月迄）
- 昭和六〇年 四月 学校法人岩手医科大学理事就任（平成二四年二月迄）
- 昭和六〇年 四月 岩手医科大学医学部長就任（昭和六三年三月迄）
- 昭和六三年 一月 岩手医科大学第七代学長就任（平成 八年一月迄）
- 平成 二年 五月 学校法人岩手医科大学第七代理事長就任（平成二四年二月迄）

- 平成 四年 七月 圭陵会顧問就任
- 平成 五年 四月 岩手医科大学名誉教授
- 平成 六年 八月 岩手医科大学名誉学長
- 平成 二四年 三月 学校法人岩手医科大学名誉理事長
- 賞 罰
- 平成 九年 五月 岩手県勢功労者表彰
- 平成 二二年 四月 勲二等瑞宝章受章
- 平成 二二年 一月 盛岡市勢振興功労者表彰
- 平成 二二年 二月 福島県会津坂下町名誉町民
- 平成 二三年 一月 福島県外在住功労者知事表彰



## 附属病院長就任のご挨拶

平成二十四年四月一日付

医学部神経精神科学講座 教授 酒井 明 夫

主陵会の諸先生方におかれましては平素よりさまざまなご支援をいただき、心より感謝申し上げます。このたび、平成二十四年四月一日付で岩手医科大学附属病院長を拝命いたしました。前院長の小林先生の力量には到底及びませんが、先生方にご指導いただきながら微力を尽くしていきたいと存じます。

ご承知のように、現在医療は変革の中にあります。全国の医療施設では施設内の設備がほとんど様変わりし、先進・高度医療の導入、日常業務の効率化、治療行為の標準化などが日進月歩で推し進められています。これは医学の進歩を医療現場に取り入れる必然性、医療を取り巻く厳しい経営環境への対応、同業施設との競争などに起因しているように思われます。その意味で先ほど言及させていただいたような流れは当然起こってしかるべきといえるかもしれません。その一方で、このような状況の下、実際の医療業務に携わる人々の生活や思いという側面はシステム改善と同じ比重で論じられることはあまりありません。

しかし考えてみますと、システムや環境がどのように変化してもその中心にいるのはつねに

心と身体を持った人間です。この前提をおろすかにはできず、かつそこに医療そのものの改善の可能性を見ていく必要があると思います。医療現場で働く人々がゆとりの許される条件で患者さんに接することができれば、余裕を持った接遇が容易となるでしょうし、自らの作業を客観的に眺める時間が十分に持てれば、施設の管理・運営システム改善に資するアイデアが湧き出るでしょうし、体調十分でその日の医療行為を準備・実践すればミスやアクシデントの頻度も減少するはずです。もとより医療従事者の職務は不規則勤務と過重労働で特徴づけられ、最高のコンディションで仕事をするという機会ほとんどないというのが現状ですが、それでも、人間の心身に少しでもプラスになる環境・システム調整という目標はきわめて重要と考えます。医療関係者のQOL向上は医療サービスを受ける側にも良好な結果をもたらすと思います。病院で働く方々の安全を守り、安心して業務に専念していただくための環境作りを心がけていきたいと存じます。

平成二十三年の大震災は附属病院にも大きな影響を及ぼしました。発災後の停電や物資の不

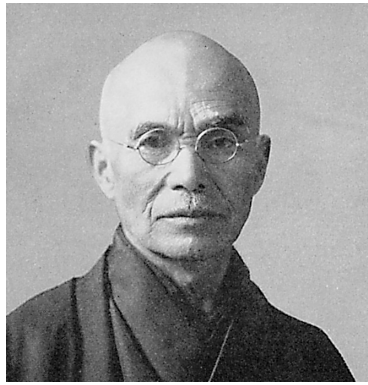
足、交通機関の麻痺などは各部署に深刻な事態をもたらしました。しかし、小林病院長の指揮の下、職員の方々の懸命の努力で病院の機能がほぼ維持され、入院・外来部門の被害も最小限に止めることができたと思います。当時を振り返ってみると、病院職員の皆様の底力ともいべきものを感じ、協力して困難を克服するという連携の妙に感動を禁じ得ません。こうした力は、これからの病院のあり方を考える上で大変貴重なものといえます。それを今後の病院運営にどう生かしていくかが今考えるべきことのような気がします。

岩手医科大学附属病院は近い将来の移転に向けてもつとも重大な時期を迎えようとしています。病院の将来計画は、岩手県との復興計画と軌を一にして立案していかなければなりません。震災後の窮状をより良い医療総合施設の建設プランと準備段階へと昇華していきたいと考えております。この大事な時期にありまして、今後主陵会の先生方のご助力とご支援が是非とも必要と考えております。何卒お力をお貸しいただきますが、以上、就任のご挨拶とさせていただきます。

## 特別寄稿

## 岩手医科大学創立者 三田俊次郎の業績

前盛岡市先人記念館長 吉丸 蓉子

晩年の三田俊次郎  
(盛岡市先人記念館提供)

(一八六三)年、盛岡に生まれた。五才時が明治維新であるから、時代の大きな変わり目を文明開化とともに生きたと言える。幼い頃から腕白のガキ大将で、柿や栗の木に人をかきわけて真つ先に登り、とつた実は自分の分が無くなるのもかまわず、みんなに分けてやったという。このエピソードが、俊次郎の生涯を象徴していると思われるのではない。二十二才で県立甲種医学校を卒業、二十三才で医術開業免許状を受け、二十八才の時、東京帝国大学医学部選科、眼科学を修了、盛岡市内加賀野に三田眼科医院を開設する。俊次郎はここを拠点として、種々の事業をくりひろげていくのである。

ウム」、さらに精神病患者のための「岩手保養院」などである。これらの医療施設は、俊次郎の病に苦しむ人をひとりでも多く救いたいという切実な願いにより実現されたものである。俊次郎は、貧困者で病気になる者の救済に驚くほど積極的で、しかもこれが長年にわたって広範囲に続けられている。私立岩手病院には、当初から貧民に対する無料診療を行う診療部が設けられており、サナトリウムや保養院は、「この世の中で、最も憐れむべきは、結核患者と精神病者そして癩者の三者である」という俊次郎の考えによって、県内唯一のサナトリウム、あるいは東北初の精神病院として、損益を無視して創設され大きな赤字も意に介さず、経営が続けられた。俊次郎は後にこれらの事業推進のために、(財)岩手済生会を発足させるが、それは「医療を受クル資力無キ者ヲ救護スルヲ目的」としたものであった。

## 三・医学専門学校の創設

医療施設の開設と平行して取り組んだのが、医療従事者の育成である。岩手県初の「産婆看護婦学校」を設立するとともに、郷土に無医村があつてはならないと、「私立岩手医学校」も創設した。この医学校は十年間で廃校となつてしまふが、この志は消えることなく、その後、「岩手医学専門学校」の創立という俊次郎の生

三田俊次郎は、今日の岩手医科大学の創立者であり、全生涯を医療事業、育英事業、慈善事業に尽くした「限らない人間愛の人」として、またこれらの事業を通して郷土の発展に寄与した人物として、盛岡市先人記念館にも顕彰され、知られている。

## 一・医師となつて

俊次郎は、盛岡藩士三田義魏を父に、文久三

## 二・病院等の創設

俊次郎の業績として、まず上げられるのが、病院をはじめとする医療施設の創設である。閉鎖中だった元の県立病院を借り受けて開設した「私立岩手病院」、結核治療施設「岩手サナトリ

涯における最大の事業へと発展していったのである。一個人病院を基盤として、東北の一地方都市に、医学専門学校開校の認可を得るということは、なま易しいことではなかった。が、悲願であった無医村の解消と郷土発展のためにという情熱が、すべての困難を押し切ったと言える。兄義正の援助もあったが俊次郎のひた押しの行動力が開校にこぎつけるのである。私立岩手病院を医専の付属病院とし共に発展の途にづくが、こうして成った盛岡の学都化が、郷土発展のために寄与した功績は計り知れない。

#### 四. 育英事業

俊次郎は、育英事業や学校経営にも力を入れた。これは、俊次郎の母キヨの志を継いだものでもある。俊次郎の母キヨは、花巻近郊の郷土の娘でほとんど無学だったといわれる。が、子女の教育には信念をもってあたり、四男三女すべてに十分な教育を施しりっぱに育て上げている。その後は、自ら積錫育英会を作り、儉約節約をして積み立てた金子を、貧しい家の子どもたちの学資として用立てている。俊次郎は兄義正ら五名と、母キヨに学び毎月拠金をして必要な子弟に学費を貸与する岩手育英会を創設するとともに、俊次郎個人で三田医学奨励会をつくり、帝大医学部に進む者への学費援助を行っている。これらの恩恵を受けた中には、俊次郎の嗣子となり岩手医科大学長となった三田定則

をはじめ、東京女子医大専長・久慈直太郎、九州大学名誉教授・小野寺直助、東北大学名誉教授・井上勝治郎、岩手医大教授・今泉龜徹、同・足沢三之助など多数いる。三田医学奨励会には、この学資金にたいする形式的な返済は無く、返せるようになったら何らかの形で返して貰うというアバウトなものであったらしい。儉約家である有名であった俊次郎だが、一旦お金を貸してしまふと催促は一切しなかった。が、奨学金の返済があるとその義理人情を喜んで、くりかえし家人に語ったという。この育英事業の推進に見られるように、俊次郎は、医療や郷土の発展には人材の育成が不可欠で、そのためには教育が重要であることを深く認識していた。医学学校、医学専門学校の創設だけでなく、作人館中学、盛岡実科女学校、岩手高等予備校、岩手商業学校など種々の学校を創設するとともに運営に携わった。俊次郎の学校創設という教育への情熱にも、母キヨの影響を見ることができるといえる。

#### 五. 世のため人のため

貧しい者、弱い者、困っている者たちを前に、黙っていることができない、この人を慈しむ精神こそ、俊次郎をあらわすと言える。学校、病院経営などの自らの事業に専心するかたわら、盲啞学校、岩手保護院、岩手育見院、岩手養育院など、障害者、釈放者、孤児、寡婦などの保護事業にもつねに関わっていた。同時に、看護

婦、車夫、使用人など身の回りのすべての人を気にかけよく面倒を見、殆ど自分を顧みることがなかったのである。

俊次郎は、独裁的なワンマンであったという。これら通常人の倍にも三倍にも匹敵する事業をなし得るには、さもあるうと思われる。また、俊次郎は儉約家、節約家さらには吝嗇家として有名であった。自らの日常は華美を嫌い質素で、衣服は同じものを何年も着ていたという。七十九才の天寿を全うするが、残された財産は、みすばらしい家屋の他、何もなかったという。けちと悪口を言われながら、得るお金のすべて、持てる財産のすべてを、赤字経営のサナトリウムや保養院に、病院経営や学校経営に、さらには育英資金にと、つぎ込んできたのである。限りない人間愛をもって、世のため人のために尽くした偉大な人生であったと言える。

広報局より

本号では、元盛岡市先人記念館長の吉丸蒼子先生が岩手医科大学医師会報第107号に寄稿されました内容を、吉丸先生のご許可をいただき、全国の圭陵会員にご紹介をさせていただきます。

この内容は、矢巾キャンパスで岩手医科大学教職員、医・歯・薬1年生及びびわて高等学校コンソーシアムの一環としてご講演をいただいた内容ということであり、又岩手医科大学報vol.426にも掲載されたものであります。



# 医学部長就任のご挨拶

平成二十四年四月一日付

医学部形成外科学講座 教授 小林 誠一郎

圭陵会の皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度、鈴木一幸医学部長の後任として、医学部教授会のご推薦をいただき、理事会の決定を受け、四月一日付で医学部長を拝命致しました。様々な解決すべき問題が山積みされているこの時期に医学部長の大役を仰せつかりましたことは、身に余る重責ではございますが、鈴木一幸前医学部長の御業績に恥じぬよう、全体の調和を旨として一歩一歩着実に歩を進めたいと思っております。

思い起こせば、私が村井病院長より副院長業務を仰せつかりまして以来、長らく病院運営に携わってまいりました。DPC導入に始まり、診療録の中央化、クリニカルパス委員会の立ち上げ、医療材料の見直し、医療安全・感染対策の拡充等々様々な問題に取り組んでまいりました。「任を遂行できた」などとは到底申し上げられません。幸いにも関係各位また職員の皆様の並々ならぬご協力・前向きの一歩を感じながら、それをあげみとさせていただき、今日まで大過なく過ごさせていただいたような気がしております。

以上のような経験の中で目指してきたことは

「医療技術と医療サービスを含めたより良き医療の提供」であります。今後は、「より良き医療の提供」というモットーを教育・研究の中に生かしてゆきたいと思っております。

さて、薬学部が加わり、本学が医歯薬総合大学として新たに歩みを始めて六年目を迎えます。教育面では三学部共通カリキュラムの導入をはじめ、研究面では医歯薬共同研究センターが活発な研究体制を充実させつつあります。このような三学部の横断性と各学部の独自性、すなわち縦と横のリンクが本学の特徴であり、さらなる基盤形成を推し進める必要があります。

共通カリキュラムを除いた医学部独自の教育に目を転じれば、休む暇のない座学および実習カリキュラムが生まれ、履修内容を効率的に習得する工夫が進められています。しかし、毎年、各学年数名の留年者が出ることは、大変悩ましい問題であります。

厳しい入学の難関を突破し、受験勉強からの解放感でホッとした時期の一、二学年から、医師になるという初心を忘れず、勉学の習慣を怠ることなく過ごすことが重要な鍵ではなからうかと思っております。少しづつであっても勉強の継続と積み重ねが躓く前の強固な杖となるよう

指導してゆきたいと思えます。加えて、留年人数を減少させるべく、さらなる改善策を検討してゆく必要があります。必要な履修範囲の提示とその理解、不十分な習得部分の明確化とそれに対する補強策など、定員増をも踏まえ、重点課題として今後とも継続した改善を図る所存です。

研究面等に目を移すと、今年度は震災関連の各種大型補助が策定されつつあります。現時点で決定されているものには、被災地の健康サポート、災害医学推進関連事業、心のケアサポート事業などがあります。被災地支援を基盤とし、岩手県医療全体の向上につなげるべく、また、全国に発信できるモデル事業とするべく、大学全体として取り組む大きな課題です。一方で、矢巾への病院移転という大きな事業が控えており、本年度は大学変革のさらなる一歩を踏み出す年とも言えます。良い医療の提供、また教育と研究の基盤となる大学の発展を旨とし、確実な歩みを進めて行きたいと思えます。

圭陵会の皆様には、今後とも物心両面からのご援助をお願いすることがあるかと存じますが、継続したご協力、ご指導、ご鞭撻を切にお願い申し上げます。

## 学校法人岩手医科大学名誉理事長（前理事長）岩手医科大学名誉学長（元学長）

圭陵会 顧問

### 大堀 勉 先生 逝去せらる



大堀 勉 先生（八十七才）には、かねて病氣療養中のところ六月七日午後五時四十三分ご逝去になりました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

告別式は学校法人岩手医科大学による法人葬をもって左記のとおり執り行われます。

#### 記

日時 平成二十四年七月七日（土）午後一時  
場所 岩手県民会館（盛岡市内丸九十三ノ一）

葬儀委員長

学校法人岩手医科大学 理事長・学長 小川 彰 殿

#### 故大堀 勉 圭陵会顧問 略歴（岩手医科大学・圭陵会を主とした）

本籍地 福島県 大正一四年 三月八日生

##### 学歴等

- 昭和一七年 三月 福島県立会津中学校卒業
- 昭和一九年 四月 岩手医学専門学校入学
- 昭和二四年 三月 岩手医学専門学校卒業（医専一七期）
- 昭和二四年 四月 国立千葉病院において病院実施修練（昭和二五年三月迄）
- 昭和三四年 六月 医学博士

##### 職歴

- 昭和二五年二月 東京慈恵会医科大学外科学講座副手嘱託
- 昭和二七年 二月 東京慈恵会医科大学泌尿器科学講座に転ず
- 昭和二九年 一月 東京慈恵会医科大学泌尿器科学講座助手任用
- 昭和三五年 二月 東京慈恵会医科大学泌尿器科学講座講師昇任
- 昭和三六年 五月 岩手医科大学医学部皮膚泌尿器科学講座助教昇任（昭和五四年六月迄）
- 昭和三六年 七月 圭陵会幹事就任
- 昭和四一年 四月 岩手医科大学医学部泌尿器科学講座教授昇任（平成 五年三月迄）
- 昭和四四年 四月 学校法人岩手医科大学評議員就任（平成二四年二月迄）
- 昭和四五年 七月 圭陵会副会長就任（昭和六三年六月迄）
- 昭和四九年 四月 岩手医科大学医学部附属病院院長就任（昭和六〇年三月迄）
- 昭和五〇年 四月 学校法人岩手医科大学理事就任（平成二四年二月迄）
- 昭和六〇年 四月 岩手医科大学医学部長就任（昭和六三年三月迄）
- 昭和六三年 一月 岩手医科大学第七代学長就任（平成 八年一月迄）
- 平成 二年 五月 学校法人岩手医科大学第七代理事長就任（平成二四年二月迄）

- 平成 四年 七月 圭陵会顧問就任
- 平成 五年 四月 岩手医科大学名誉教授
- 平成 六年 八月 岩手医科大学名誉学長
- 平成 二四年 三月 学校法人岩手医科大学名誉理事長
- 賞 罰
- 平成 九年 五月 岩手県勢功労者表彰
- 平成 二二年 四月 勲二等瑞宝章受章
- 平成 二二年 一月 盛岡市勢振興功労者表彰
- 平成 二二年 二月 福島県会津坂下町名誉町民
- 平成 二三年 一月 福島県外在住功労者知事表彰